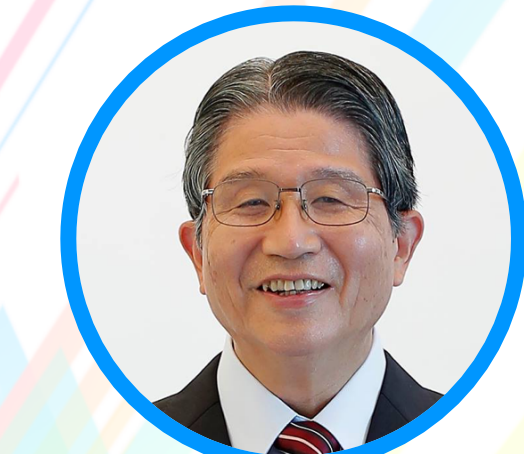
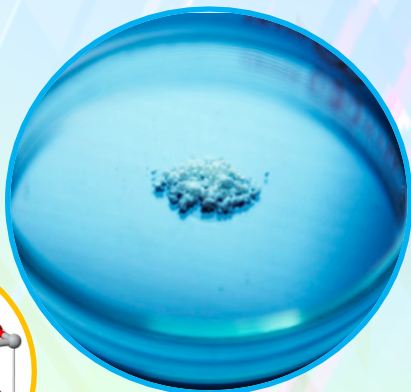
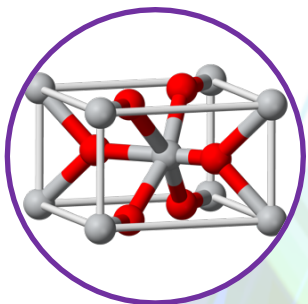




平成29年度文化勲章授章

平成30年 講書始の儀

光触媒の今までとこれから

藤嶋昭 先生（東京理科大学 前学長）

平成30年

5月13日(日)

15:30~17:00

早稲田大学国際会議場
井深大記念ホール

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-20-14

参加費 **無料**

光触媒の作用とは、光を吸収することで励起された電子や電子の抜け殻であるホールがそれぞれ界面で化学反応を起こすことです。その研究が活発化した発端は間違いなく、約50年前の1967年の『本多・藤嶋効果』の発見になります。二酸化チタン(TiO_2)は水の中で光を当てると、水が分解されて水素と酸素が発生する物質で、クリーンエネルギーサイクルの中で燃料と位置づけられる水素を生み出す技術として注目されています。それに加えて、 TiO_2 は特に強い酸化力をもつホールを生じ、微弱な光照射でもそこに吸着した有機物を効率的に分解できること、また、光照射によってその表面が水になじみやすくなる超親水性効果をもつことから、塗布することによって、室内では抗菌や抗カビに有効な壁、屋外では曇らないミラーや汚れず光量の落ちないライト、汚れが雨で洗い流されるテントなど、多方面に応用範囲が広がっています。学術的な面ばかりでなく、このような応用面も藤嶋先生が中心となって先導されています。

